

## ●概要

日 付：2013年9月8日（日）

時 間：13:00 -17:30

定 員：50名

参加費：1,000円（資料代）

対 象：小中高の教職員、子どもに関わる方々  
（保護者、臨床心理士、児童館や児相の職員、ケ  
スワーカー、子ども支援のNPOの方、宗教者など）

場 所：ちおん舎（京都府京都市中京区衣棚町三条上突抜 126）



[アクセス] 地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅下車6番出口より徒歩3分

## ●企画にあたって

この度、教員をはじめ、子どもや若者に向き合う方々と「いのち」や「こころ」について学び、考える機会を持ちたいと考えました。

近年、大阪の中学生のいじめ自殺や、大阪の高校での体罰の問題など、子どものいのちやこころをどう守っていくのか考えさせられる事件も続いています。今回は、根本に立ち返り、改めて子どものいのちとこころをどう支えていくのかについて具体的に知ることによって、学校現場にいかせるヒントを持ち帰れるような研修会を催します。

## ●一般社団法人リヴオン <http://live-on.me>

「死に直面した誰が必要とするサポートにつながる社会の実現」をミッションとして、「つどいば」と「いのちの学校」という遺児支援、グリーフケアの場づくりや自殺予防教育についての研究、プログラム開発を行っている。

## ●タイムスケジュール

13:00 オープニング

13:10 ご挨拶

13:45 パネルディスカッション

「子どもの居場所 大人の居場所」

15:25 対話の時間（※OST）

17:30 終了予定

※OSTとは「オープンスペーステクノロジー」の略称です。一人ひとりが関心を持つ課題を出し合い、テーマを絞って班内で、対話しながら課題の解決のための知恵を出しあったり、考えを深めるワークショップです。

## ●パネリスト



土肥 いつき氏（京都府立高校教員）

1992年に京都在日外国人生徒の交流会をはじめ、全国在日外国人生徒交流会の世話人になる。2006年にはトランスジェンダー生徒交流会をはじめ。自分自身である安心できる居場所づくりのみならず「ありのままのわたしを生きる」をテーマに全国で講演にも呼ばれている。



尾角 光美氏（一般社団法人リヴオン代表）

2003年に母親を自殺で亡くす。2006年から自殺予防や遺族のケアに関して、全国の行政、寺院などから講演、研修に呼ばれる。中高、大学では「いのちの授業」（自殺予防教育）を実施。2009年にはリヴオンを立ち上げ、『102年目の母の日』（長崎出版）編著。



村井 琢哉氏（NPO 法人山科醍醐こどものひろば）

NPO 法人山科醍醐こどものひろば理事長 関西学院大学人間福祉学研究科前期課程修了。社会福祉士。子ども時代より活動に参加し、運営の担い手に。2013年5月より理事長。多様な子どもとの活動を支える担い手育成や、地域連携による居場所づくりに取り組む。

## ●NPO 法人山科醍醐こどものひろば <http://kodohiro.com>

地域に根ざし30年、地域に住むすべての子どもたちが、心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなることを目的に活動している団体。子育て支援、まちづくり、子どもの貧困、もうひとつの居場所を目指し様々な連携して活動している。

申込：山科醍醐こどものひろば 子ども生活支援センター 申込時に①氏名②連絡先③ご職業をお伝えください。

Tel / Fax : 075-201-3490 Mail : [we.kodohiro@gmail.com](mailto:we.kodohiro@gmail.com)